



Title	巻頭言：創刊にあたって
Author(s)	松木, 光子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1995, 1(1), p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56777
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

卷頭言

創刊にあたって



大阪大学医学部保健学科看護学専攻は1993年10月に開学し、1994年4月から学生を受け入れている。したがって、実質的には1994年から始まったような印象を多くの人々に与えているらしい。この学士課程への移行は、長期にわたって切望してきたものであり、さらに優秀で有意の学生の入学を迎ただけに、未来への広がりがありうれしく希望のもてる感覚が本学の多くの人にはあるようである。

1994年度の看護学専攻では、教官は医療短期大学部から移行の教官14名と新たに看護職の教授5名が加わった。'95 '96 '97年にわたってさらに教官の増加が見込まれており、最終的には37名が予定されている。医療短期大学部の2・3年生の教育と共に担当しながら、学士課程の建物や教育の準備、また大阪大学医学部保健学科看護学専攻の第1期生の教育活動が始まり、職員一同大変であるがなにかしら楽しみな今日この頃である。

学士課程と短期大学との相違は、教育においては専門職能的レベルと技術的レベルの相違であり、教官については短期大学では教育へのウエイトが高く、一方大学では教育とともに研究も重視されてくる。

そこで、新たな船出を跡づけるものとして、この度「大阪大学看護学雑誌」と名付ける紀要を発行することとした。当学科看護学専攻と大阪大学病院看護部の双方から研究論文を広く募集し、双方の合同で編集・出版・発行を行っていく。特にこの種の出版では、質保証に留意することが肝要であるが、本誌では査読制度を取り入れることにより、質的維持を計ることとした。

看護の研究は、クライエントへのケア効果に看護として責務をとるならば、科学的責務のとれる看護の実践が肝要であり、そのために必要なのである。

特に第1巻は創設記念号であり、船出の出発を記すものとして、若手の投稿を歓迎した。これはこの後も同様であるが、本誌をあしがかりとしてさらに研究が発展し、将来多くの優れた研究者の輩出を切望している。

なお、保健学科看護学専攻開設にあたって、その開設記念として大阪府看護協会より看護学専攻研究助成金の寄付をいただいた。本誌はこの助成金を使って発行したものであることをここに書きとどめて、深く感謝の意を表する。

平成7年如月

大阪大学医学部保健学科

看護学専攻主任 松木光子